

ラジオ波による 深部温熱を操る。

深部熱・温熱効果

疼痛の改善

筋痙縮の改善

関節性拘縮の改善



ラジオ波温熱セミナー 東京

テーマ 痺れへのアプローチ

日時 2019年10月6日（日）
10:00～12:00（受付9:30～）

場所 酒井医療株式会社 セミナールーム
東京都新宿区山吹町358-6

参加費 3,000円 **定員** 20名

お申込

弊社「酒井医療」のホームページよりお申込みください。トップページの「セミナーイベント」から「セミナー一覧」ページへアクセスすることができます。該当のセミナーからお申込フォームにご入力ください。

講師紹介



種市純也 (junya taneichi)

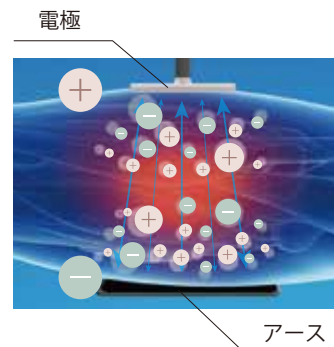
・横浜スポーツ接骨院・整体院 院長
・柔道整復師

器械を独自の発想でアプローチ法をみだし、繰り返し検証して常に効果的な使用方法を模索している。自身が格闘技イベント「巖流島」にも出場するプロ選手として活動しており、治療・トレーニング・栄養指導をトータルで提供している。

「抵抗の高い場所に温熱が集まる」特性

ラジオ波温熱の原理

電極とアースで体をはさみ、+極と-極を1秒あたり数十万回変化させて体内の分子を振動させることで、分子同士の摩擦熱（ジュール熱）を発生させることで体を温めます。体外から熱を与えるのではなく、体内で熱を発生させる深部加温が可能です。そして従来の温熱機器と大きく異なるのは「抵抗の高い場所に温熱が集まる」というラジオ波の特性にあります。



2種類のプローブで様々なアプローチを実現

軟部組織

筋肉	筋膜
腱膜	血管
リンパ	



硬組織

靭帯	腱
関節	骨膜
骨	



高い疼痛緩和効果と 温熱持続性の実証

15分の施術で、温熱の届く深さは5~10cm、体内温度を3~5℃高めます。施術後も体内温度はすぐに下がることがなく、3~4時間維持される特長を持っています。腰痛を含めた様々な疾患に苦しんでいる患者※の81%に対して痛みの軽減に高い効果が認められています。



※ 引用文献：腰痛に対する静電容量の電気転送温熱療法の臨床効果

Clinical Effect of Capacitive Electric Transfer Hyperthermia Therapy for Lumbago

Kuniyasu Takahashi1), Tetsuo Suyama1), Makiko Onodera1), Shigeru Hirabayashi2), Nobuyuki Tsuzuki2), Li Zhong-Shi2) 1) Department of Rehabilitation, Saitama Medical Center, Saitama Medical School, Kamoda-Tsujidoumachi 1981, Kawagoe City, Saitama 350-8550, Japan 2) Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical Center, Saitama Medical School J.Phys.Ther.Sci.11:45-51,1999 © The Society of Physical Therapy Science

セミナー会場



お問い合わせ

酒井医療株式会社：03-5227-5775
(当日のご連絡先：080-9351-1909)